

可能性を解き放つ： 金融業界のAI導入準備

Jeromey Farmer

北米担当データ・AIアドバイザリ責任者



Jeromey Farmer

北米担当
データ・AI・アナリティクスアドバイザリ
責任者

専門領域

- テクノロジー戦略
- エンタープライズデータ戦略
- 人工知能
- デジタルトランスフォーメーション
- IT戦略
- テクノロジー変更戦略



経歴

シニアマネジメントによる重要な戦略的イニシアチブの開発と実行およびビジネス判断を支援する人工知能、データサイエンス、プロダクトイノベーション、クラウド、デジタル戦略、高度アナリティクス、研究、重要な分析インテリジェンスの分野で20年以上の経験を持つ。データとテクノロジー分野における学術プログラムの開発、立ち上げ、成長で実績のあるリーダー。戦略的で先見性のあるリーダーであり、企業や顧客のニーズに応え、成功に向けて持続可能なモデルを構築するために、複雑なビジネス問題を定式化・解決することを専門としている。セントルイスのSlalom社を、4年連続黒字のまま、経常利益1億5,000万ドル達成という成功に導いた実績がある。専門サービスコンサルティング会社を設立・経営した経験に加え、データサイエンス、イノベーション、研究の領域では、連邦準備制度理事会（FRB）の一部として米国財務省をサポートする新部門を2つ立ち上げ、責務と事業ラインを拡大させた実績、さらに新製品を中心に製品のイノベーションとリノベーションを推進する米国中心の消費財会社において、データサイエンス組織を設立・統率した経験を持つ。経営トップと効果的に連携し、企業のコスト削減、効率化、業績向上、持続可能性キャンペーンを推進するために、データおよびビジネスアナリティクスチームを率いてきた。パフォーマンスの高いチームの結成、拡大、育成に成功しており、キャリアを通してより多くの責任を担い、それらの分野で優れた実績を収めている。



専門領域

北米担当データ・AIアドバイザリ責任者

Avanade / Accenture

学長兼実務家教員教授

ワシントン大学マッケルビー工学部

テクノロジーとデータ戦略担当エグゼクティブマネジメント

Equifax, Edward Jones, Kynetec, Safety National

テクノロジーとデータケイパビリティ担当マネージングディレクター

Slalom

バイスプレジデント兼役員、財務データサイエンスとアナリティクス担当責任者

連邦準備銀行（FRB）

マネジメントコンサルタント、グローバルデータサイエンスリーダー

Nestle Purina



業界

- 金融サービス
- 消費財
- ヘルスケア
- ライフサイエンス
- 専門サービス
- 教育



学位

- 応用数学の博士号
- サプライチェーンと物流の経営学修士
- 情報システムの修士号
- コンピューターサイエンスの理学士号
- 数学の理学士号

アジェンダ

01

金融業界におけるAIの
展望

02

生成AIの台頭

03

AI導入を阻む主な
課題

04

AI導入準備の状況と
成熟度

05

責任あるAIとガバナンス

06

AI実装までの
ロードマップ

07

AIを始める

金融業界におけるAIの展望



AI導入準備の状況

AIによって、私たちの仕事、コラボレーション、創造のあり方は大きく変化しています。

しかし、組織やその従業員は、AIファーストの考え方を受け入れ、AIの可能性を最大限に活用する準備ができていますでしょうか。

組織と従業員のAI受入れ態勢は完全に整っていない

ほとんどの従業員（95%）はAI導入を楽観的に捉えており、ほぼ全員（96%）が、自組織のIT担当者にはAI活用範囲を広げる知識とリソースがあると確信している

しかし、責任あるAIのための具体的なガイドライン／ポリシーを完全に整備済みであると回答した組織は、半数以下（48%）にとどまる

生成AIによって私たちの働き方は大きく変わる

従業員10人中約8人（79%）が、生成AIツールによって最大20時間（週の労働時間の半分）の労働時間に影響が及ぶと予想している

しかし、大多数（63%）は、AIの恩恵を享受するためには、2024年末までに何らかの新しいスキル、あるいは完全に新しい一連のスキルが必要になると答えている

競争上の優位性を得るためにはAIファーストが重要

大多数の回答者（92%）は、競争力を維持するためには、今後1年以内にAIファーストの経営モデルにシフトしなければならないと考えており、大多数（94%）が、AIの取り組みを加速させるために、2024年にデジタル投資を増やすと回答している

IT部門の従業員は、組織の野心的なAI導入スケジュールに応え、データとアナリティクスを統合してAI導入範囲を拡大させることを目指し、データプラットフォームやアナリティクスプラットフォームへの投資を優先している

AIの民主化と人々への影響

「AIに奪われるのは仕事ではなく、タスクです。仕事の形態が変わるのです。問題は、それぞれの知識労働者にAIについて十分に説明してもらい、労働者が自らタスクをAIに任せられるようにできるかという部分にあります。」

多国籍金融機関 AIエグゼクティブ



97%が、現職で少なくとも週に1回、57%が毎日、AIを使用している。最も多い活用法は、定期的に発生する単調なタスクの自動化である



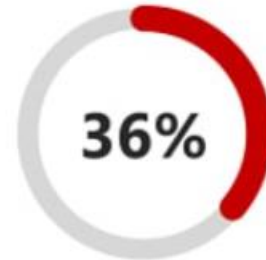
業界にかかわらず、大多数の回答者（64%）は、AIによって組織に必要な人間の数が減るとは考えておらず、大多数の回答者は、2024年末までに従業員数が最大9%増加すると予測している



ほぼすべての回答者（92%）が、自組織が競争力を維持し、顧客の期待に応えるためには、今後12か月以内にAIファーストの経営モデルに切り替える必要があると考えている

AIは戦略強化を意味する

バンキング業界のリーダーに、組織のAI戦略における**主な目的**を尋ねました。**全セクターの中で、効率性、イノベーション、エンパワーメント、満足度**といった側面に対する**AIの影響を最も期待していないのは銀行業界**でした。また、AIに対して最も**脅威を感じている**のも銀行業界でした。



Inform organizations strategy



Improve efficiencies



Create better customer experiences

62%

More people needed due to AI

Almost two-thirds felt AI will increase staff numbers.

59%

Bankers claim to use AI daily

6 in 10 bankers claim to be using AI on a daily basis.

28%

Slow to assess AI impact

Only 1 in 4 can assess AI impact in less than 3 months (lowest of all sectors).

41%

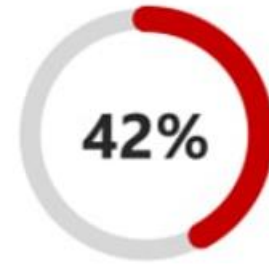
Low take-up of Responsible AI

Only 4 in 10 have a complete set of guidelines (second lowest of all sectors).

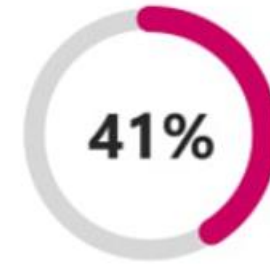
金融業界におけるAIユースケース Top 3

金融業界の**最高責任者**が最も期待している
AIユースケース Top 3:

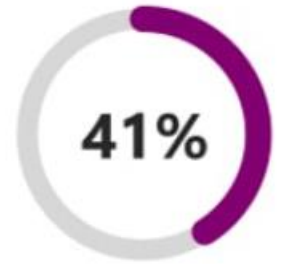
- **顧客オンボーディングの自動化** (42%)
- **詐欺の発見** (41%)
- **リスク・規制・コンプライアンス要件対応の自動化** (41%)



Automation of
customer onboarding
(KYC, etc.)



Automation of risk,
regulation and
compliance requests

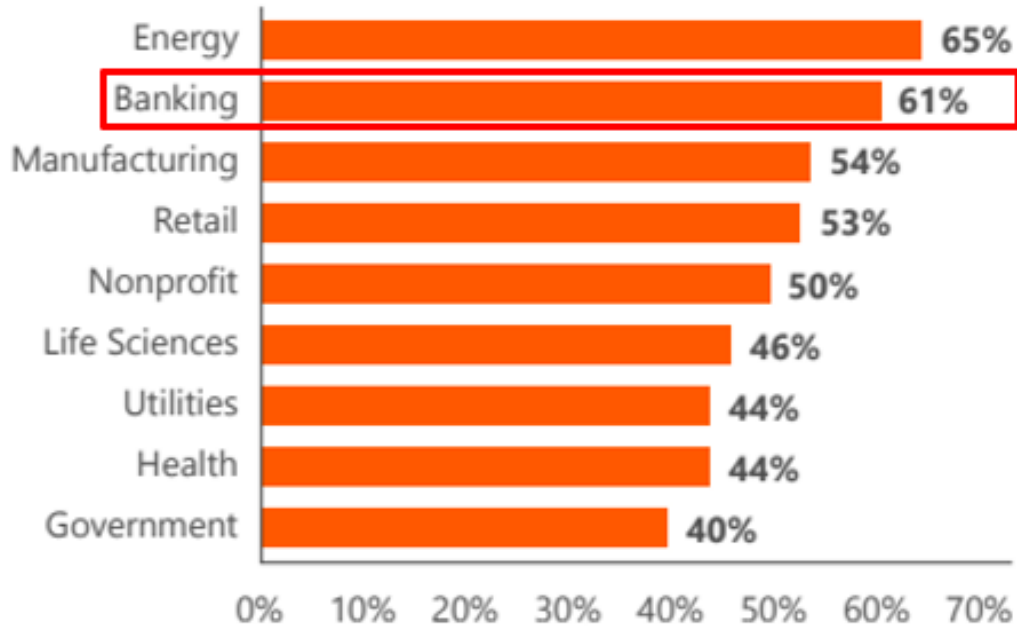


Monitoring fraud
detection/auto-healing
of security loopholes

<https://www.avanade.com/en/insights/generative-ai-readiness-report/banking-ai-report>

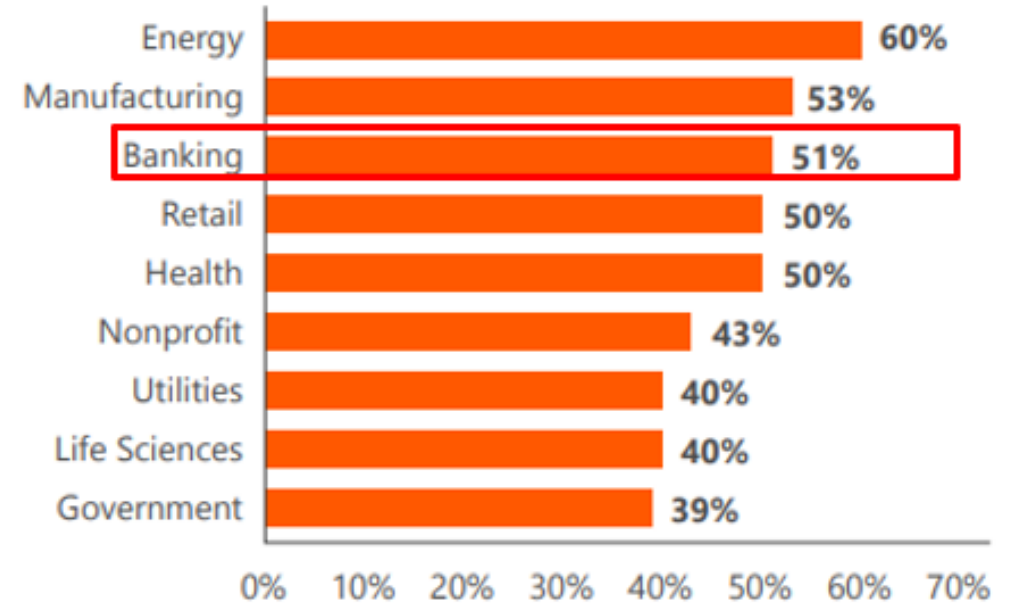
各業界の展望：リスクとガバナンス

企業全体の生成AIの
リスク管理プロセスに最も自信がある



規制が厳しい領域で事業を展開するエネルギー部門と銀行部門は、
自社のリスク管理プロセスに最大の信頼を寄せている。

生成AIとそのガバナンスの必要性について、
リーダーとして最も自信を持っている



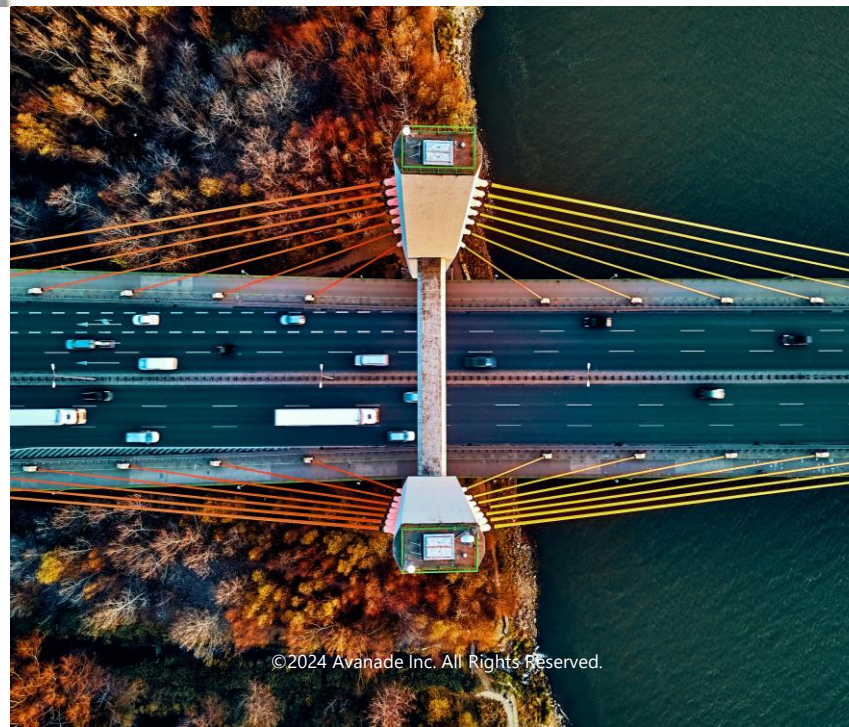
回答したエネルギー関連企業は、リーダーのAI活用能力に
最も自信を示している。



「どこかに生成AIを組み込む場合は、規制当局に納得してもらわなければなりません。Excel分析といったタスクであれば、大きな問題はありません。しかし、もし顧客と接する機会の多い業務であればどうでしょうか。たった1度、間違ったアドバイスを鵜呑みにし、バックエンドのデータを確認しなかっただけで、職を失いかねません。」



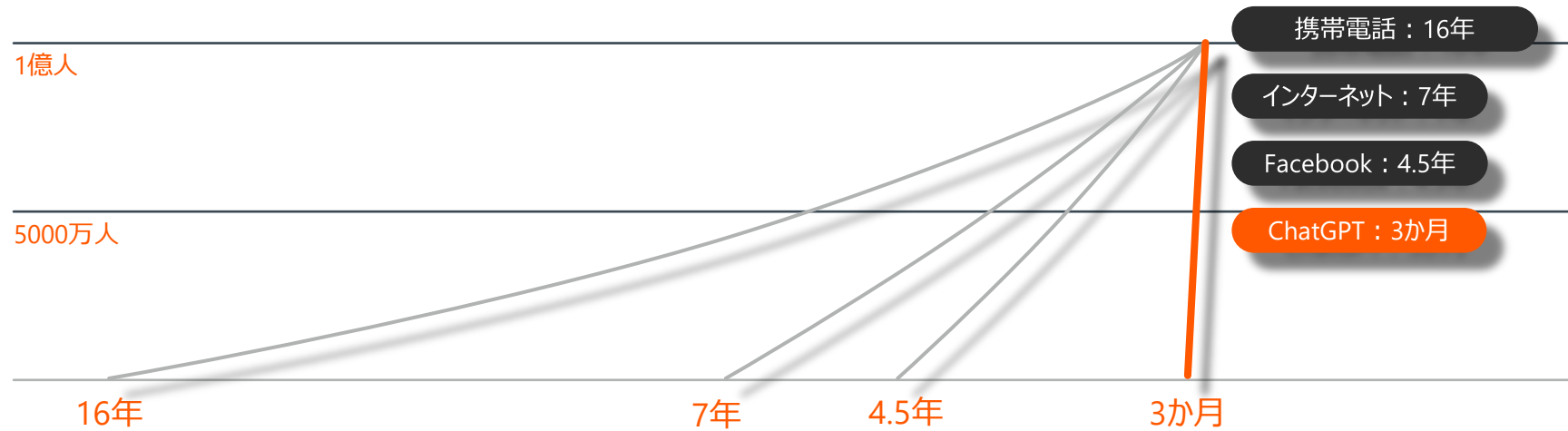
あるヨーロッパの銀行家は次のように述べています。「ほとんどの企業が持っているデータは、機械学習やAIのために収集されたものではありません。そのようなデータは使えない可能性があります。リスクはとて大きく、コンプライアンス要件は厳しいからです。顧客の本人確認手続きや信用リスクの評価、それらはすべて膨大なデータです。」



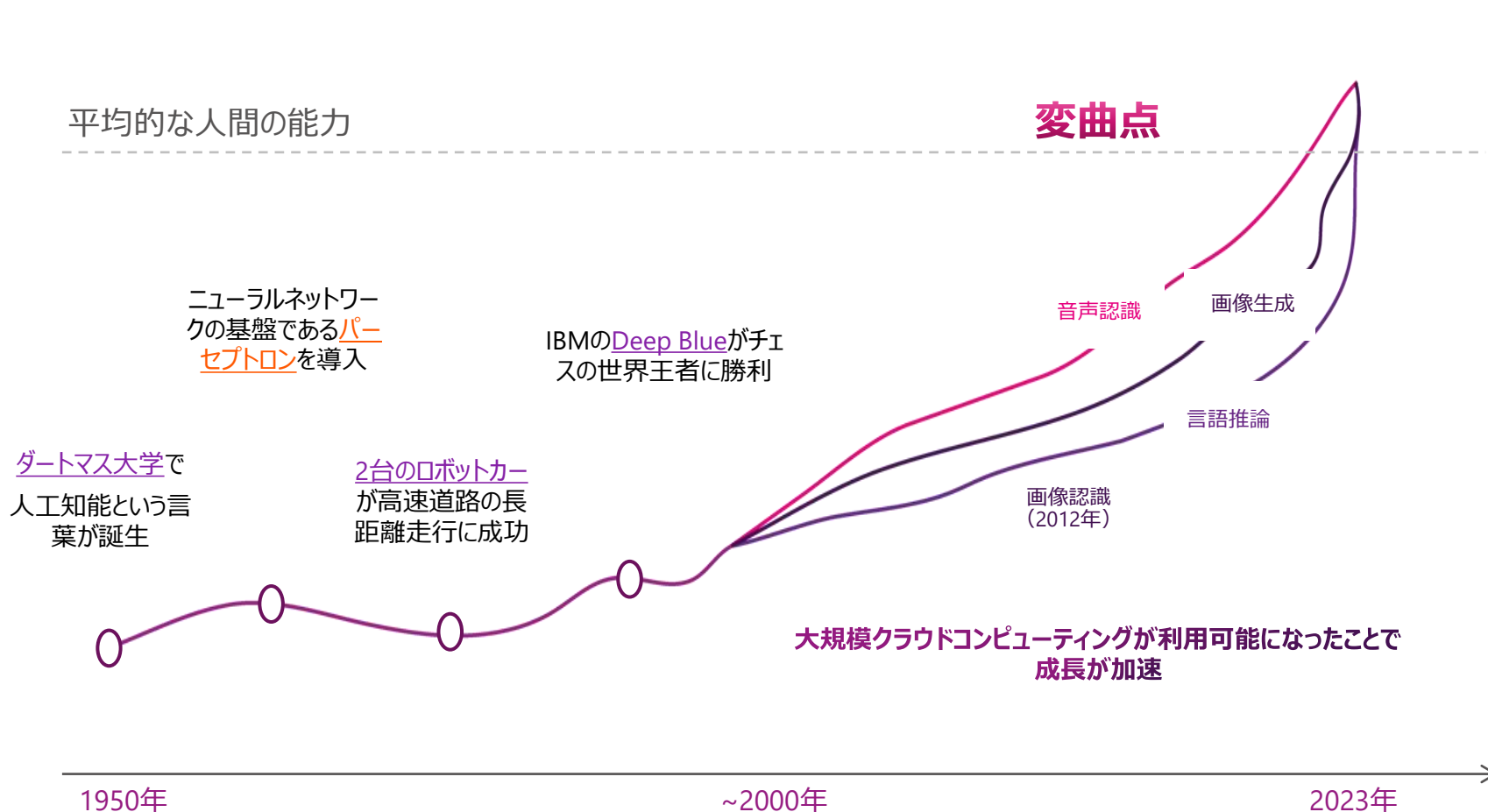
「経営陣は、AIの可能性に大いに期待していますが、必ずしもAI導入準備を整えることを理解しているわけではありません。」

生成AIの台頭

ユーザー1億人までに要する期間



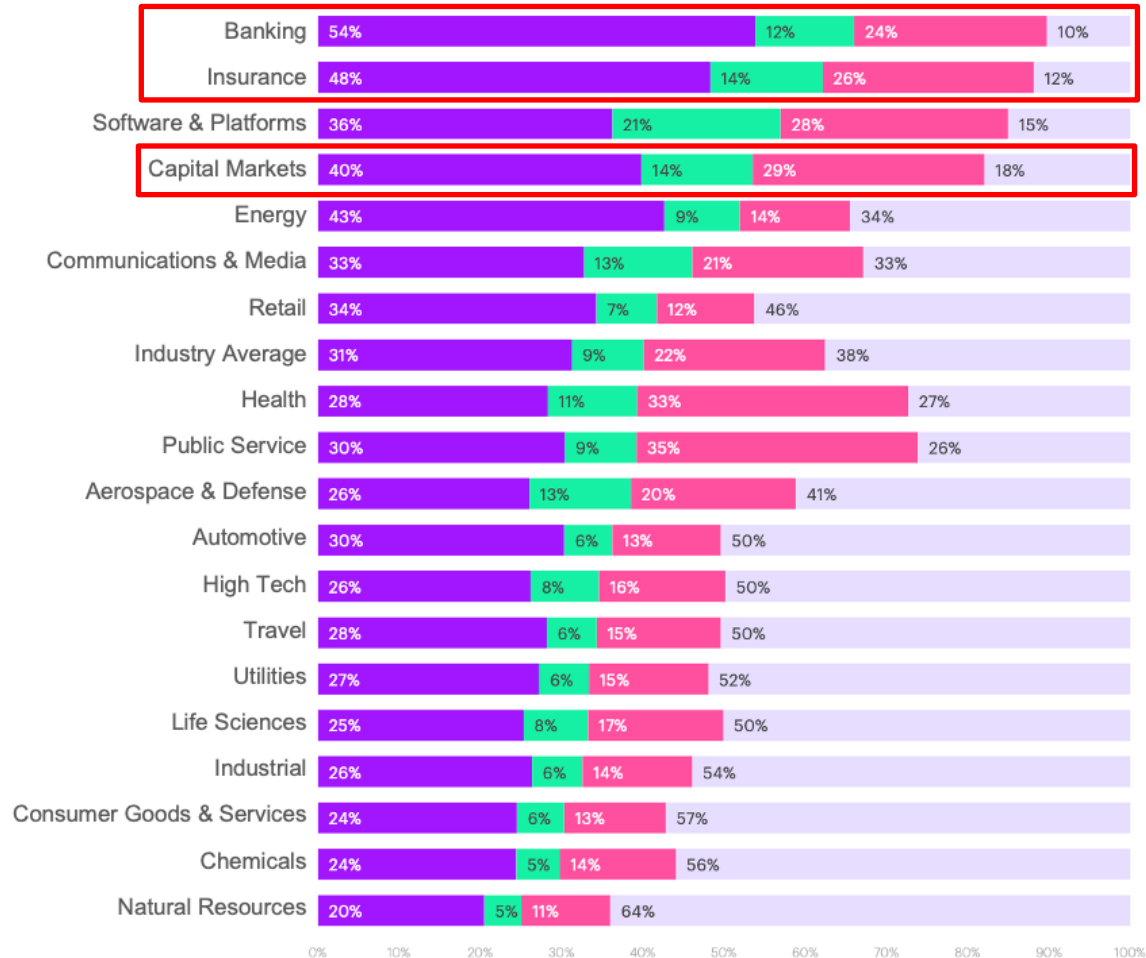
AIは新興技術ではないが、今、クラウドベースの生成AIエンジンが人間の能力を超えようとしている



クラウドコンピューティング能力の向上、モデルの進化、計算能力の向上が、生成AIの加速度的な成長に重要な役割を果たしています。

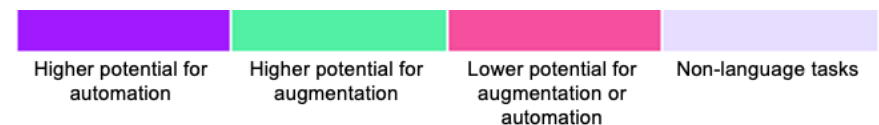
- GPT-4のパラメータ数（100兆個）は、前身のGPT-3（1750億個）の**500倍**に上る

生成AIによって、あらゆる金融サービス機能が変革する



業界にかかわらず、労働時間の**50%**は大規模言語モデル（LLM）の影響を受ける見込みです。

言語関連のタスクは、米国の総労働時間の62%を占めています。すべての言語関連タスクのうち、**65%はLLMで自動化または処理能力が高まる可能性が高いでしょう。**



生成AIによって、AI戦略はどう変わるのか？

AI戦略を策定済みの場合も、その作業に着手したばかりの場合でも、生成AIを考慮してアクションプランを発展させる必要があります。

		現在のAI戦略		新たなAI戦略
	ビジョン	AIによるタスクの自動化	▶	生成AIによる 人々の業務の補強
	ロードマップ	3カ年計画、ビジネスイノベーション	▶	1カ年計画、ビジネスクリティカル性
	ユースケース	予測分析、タスクの自動化	▶	アーティファクト（テキスト、動画、音声、 コード、データ）の生成と意思決定の シミュレーション
	ガバナンス	データやアナリティクスの細分化	▶	明確なビジネス責任 AI倫理委員会
	人材	AIセンター・オブ・エクセレンス（CoE）	▶	責任ある生成AIの利用に関する 全従業員向けの教育

各種業界のユースケース

AIは、どのようにビジネス価値を増やすのか

カスタマーサービス

全チャネルを「ChatGPT」のようなチャットボットでセルフサービス化、スマートルーティング、メール返信の自動化（製品に関する質問、苦情など）

ハイパーパーソナライゼーション

トピック分析により顧客とのやり取りを明確化することによる状況に応じた次善策の提案

顧客教育

規制やポリシー関連の提案、金融用語に関する質問への回答など

マーケティング

新たに生成された画像やグラフによるマーケティングサポート、顧客／社内向けコンテンツ（メール、テキスト、レターなど）、自由回答式の顧客調査における次世代センチメント分析と_intent認識対応

適応的意思決定

リアルタイムでの提案や知見を提供することにより優れた意思決定のサポート

カスタマーサービス担当者向けコパイロット

顧客対応のモニタリング、リアルタイムのコーチング、アクションの自動化、対応時間や全体的なインシデント処理時間の短縮に役立つコールサマリーの提供、担当者の効率化と仕事に対する満足度の強化

タスクの最適化と知識の発見

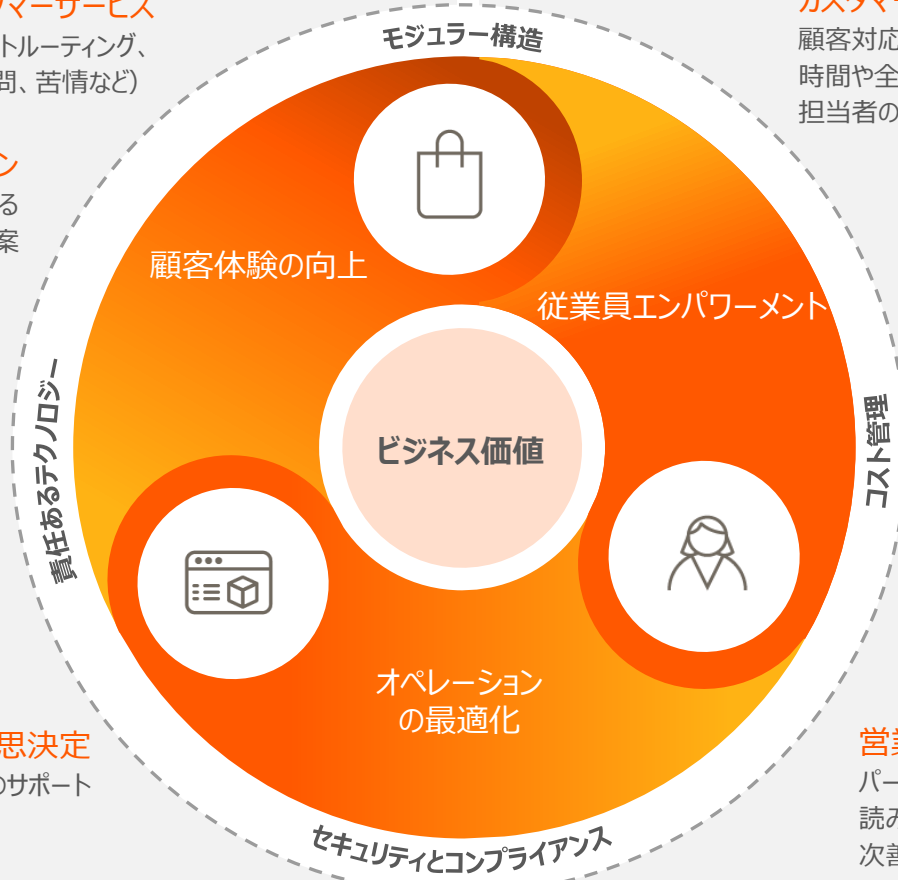
企業のナレッジベースに対する質疑応答、議事録作成とアクションの自動化、ウェルズアドバイザーや市場調査向け市場情報の提供を目的とした財務報告書などの文書の要約と自然言語クエリ、管理/方策/規制の比較

コンプライアンスと不正対策

コンプライアンス：金融機関は生成AIを使って、使用言語ごとにリスクの高い文書を特定し、規制要件を満たすことが可能

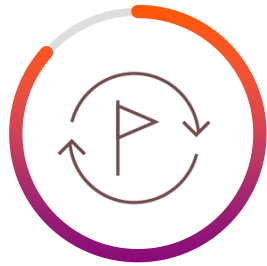
営業支援

パーソナライズされた状況に適したメール返信文の提案、クライアントの読み取り／会議準備／議事録の作成／アクションアイテムの自動化、次善策／アップセル／クロスセル機会の自動生成



AIで成長を推進する

経営陣はAIを成長の原動力と見ていますが、多くの経営陣はAI戦略、ロードマップ、ガバナンスを定義する必要性を指摘しています。



85%

85%の回答者が、AIにより、今後18～24カ月で収益が増えると予想しており、大多数が、AIにより、世界の年間収益が、6～16%成長すると予想している



36%

36%の回答者が、自組織には、AIがもたらす潜在的なリスクや危害を低減できる十分な抑制と均衡のシステムが設けられていると確信している



73%

73%の回答者が、「全面的でより安全かつ責任あるAIの実践」が、今後12～18カ月に向けた全体的な最優先事項の1つであると考えている

AIの導入と実装における課題

AI導入を阻む主な問題

56%

テクノロジーとデータ

外部エコシステムの成熟度が低いため、AIイニシアチブを加速する能力が低いと考えられている

40%

人材不足

ビジネスリーダーは、人材不足がAIソリューションの導入と拡大におけるハードルであると述べている



ROIを証明する力

導入によるベネフィットを定量化できないことが、AI導入を妨げる主要因であるとの報告がある

53%

信頼、倫理、規制

AI主導の意思決定を阻む主な理由として、AIの可能性の説明が不足している

47%

現代企業のAI導入準備状況



AIのデータ基盤が完全に成熟していない

ほとんどの組織は、**単一の企業データソースとしてのデータプラットフォーム/メッシュを構築**する取り組みを行っていますが、AIのライフサイクルに必要なガバナンス、柔軟性、敏捷性に欠けています。



多数のPoCが進行しているが、ほとんど本稼働に至っていない

MLの手法や生成AIモデルを使って特定のユースケースの技術PoCを構築する取り組みは行われていますが、**その多くは本格的なビジネスオペレーションに至っていません。**



AI利用がデータサイエンスと高度アナリティクスに制限されている

AIの利用は、主にデータサイエンスコミュニティが、一時的なビジネスニーズや意思決定に必要な高度分析を行う場合にとどまり、**制限されています。**



機能がサイロ化され、調整されていない

組織ごとに異なる基準に基づき、さまざまなイニシアチブ（MLOpsなど）が進行しています。AI開発に関して全社の部門を統合する**共通のプラットフォームや標準がありません。**



ガバナンスが後付けになっている

データガバナンスや品質管理の基準は整備されつつありますが、AIガバナンスの基準はきちんと理解されていないか、まだ発展途上にあります。



テクノロジーエコシステムが複雑である

AIエコシステムは非常に活発で、**大手クラウドプロバイダー、アナリティクスベンダー、ニッチ企業、そして新興のAIプラットフォーム企業から同様のテクノロジーやツールが提供されています。**企業の規模やAI導入範囲に応じて、適切にベンダーを選択する必要があります。

AIは新興技術であり、複数の障害を克服する必要がある



技術

- 答えを知らなくても、質問に対して**説得力のある答えを出す**傾向がある
- **社会的バイアスの傾向が認められ、学習段階にある**
- 学習元のテキストや生成したテキストの**意味を理解**できない
- AIツールの使用は、**情報セキュリティ**の侵害につながる可能性がある



法律、規制 ガバナンス






- **知的財産保護上のリスク**があり、モデルを利用することで他者の知的財産を偶発的に使用する恐れがある
- AIツールは通常、「**現状のまま**」、「**自己責任で**」使用されている
- AIツールによって生成されたソフトウェアには**セキュリティ脆弱性**が含まれており、新たな賠償責任を負いかねない
- 米国や中国などの国々は、イノベーションを阻害し得る強引なアプローチであると認識しつつも、AI利用の統制を目的とした**規制の導入**を急いでいる



人

- **虚偽または誤解を招く情報**を事実として生成するようなAIソリューションの誤用が考えられる
- **雇用への脅威が認められている**ため、**従業員によるAIテクノロジーの受入れ**が進まない可能性がある

潜在的な価値は魅力的だが、潜在的なリスクを考慮して機会を評価しなければならない

	 技術的なリスク	 金銭的なリスク	 ビジネス／経営上のリスク	 人材関連のリスク	 レピュテーションリスク
リスクと課題の例 (これらに限定されない)	<ul style="list-style-type: none"> LLMの選択 データの品質 	<ul style="list-style-type: none"> クラウドコンピューティングの費用 LLMの構築や維持にかかる費用 	<ul style="list-style-type: none"> AIによる出力の品質保証 知的財産の所有権 	<ul style="list-style-type: none"> 人材のスキル強化 人材の流出／喪失 将来に向けた人材育成／スキル開発 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員への影響 コミュニティへの影響 AIによる出力のバイアス 環境の持続可能性 (CO₂)
リスク低減、課題の解決方法	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースの実現に必要なものを理解している強力な技術チーム（生成AI CoE）を設立する 事業部門側と協力してデータの洗い出しと整理を行い、データの品質を保証する強力なデータ&アナリティクスチームを設立する 	<ul style="list-style-type: none"> 生成AIの適用や使用に関するパラメータを明確に定める ビジネス価値に基づき、生成AIの適用を制限する ライフサイクルを通じた生成AI適用の影響と価値を評価する 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な出力を限定的に評価する新たな役職や品質保証プロセスを確立する 法務部門が、知的財産関連の問題管理を目的としたガイドラインや手順の作成に介入する 	<ul style="list-style-type: none"> 人事部門が、働き方の一環として生成AIと一緒に働くユースケースを開発・導入・統合し、必要な人材を包括的に検討する人材戦略の策定に大きく関与する 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの観点から、生成AIの短期的および長期的な役割を検討する 重要な関係者を交えて、汎用的および具体的な生成AIのユースケースを開発する

AI導入準備の状況と成熟度

AIファーストの組織となり、それを維持するためには、ビジネス部門とIT部門を横断するアプローチが必要

主な原則

AI成熟度は組織ごとに異なる

AI導入準備状況については、さまざまな戦術的および戦略的観点から包括的に検討する必要がある

技術面から組織の優先事項を検討しつつ、AIファーストの考え方を受け入れてもらうためのビジネスケースを優先的に構築する



AI導入準備とは継続的な取り組みであり、終わりはありません。

AI成熟度に関する理解と成熟化計画

AIの認識

- AI技術やその潜在的なメリットについて、限定的な理解しか持ち合わせていない
- 人為的にデータを収集・修正している
- セキュリティや倫理上の懸念がある

AIの実験

- 最初に実現すべき「本当に価値のある」AIユースケースの特定が難しい
- レポート方法やAIランドスケープが管理されていない
- AIが実験やPoCの域を出られない
- データ主導の意思決定を増やすことを望んでいる

AIの統合

- データやAIモデルが「多すぎて管理できない」と感じている
- 組織全域にAIや生成AIを導入する部分で苦労している
- シチズンディベロッパーがビジネスにおいて先行している
- AIモデルの構築、テスト、展開が人為的に行われている

AIのイノベーション

- AIのイノベーションは起こっているが、その進展が遅い
- 複数のAIツールがあり、連携していない
- 大きな変化／規制の変化に対する事前対応を望んでいる
- 全組織的なシチズンディベロッパーの育成を望んでいる
- 戦略的AIの考え方へのシフトが求められている
- 業界のAIリーダーになることを望んでいる

AIガバナンスと経営モデルの設計

AIガバナンスと経営モデルの有効化／施行

データ基盤とセキュリティ評価

ユースケースの実行

責任あるAI評価

AIシチズンディベロッパーに関するアプローチ

ユースケースの発案とバックログ対応

ユースケースの優先順位付けとロードマップの作成

責任あるAIとガバナンス

AIランドスケープを変化させるには、責任あるAIの基盤を構築する必要がある

責任あるAIとは、企業がAIへの**信頼を獲得**し、確実にAIの利活用範囲を広げられるように、**ビジネス支援、従業員の尊重、社会への利益供与**という明確な原則に従って、AIを設計、構築、展開すること

信用を構築・維持する

AIシステムの利活用における主な原則



原則とガバナンス

- 責任あるAIのミッションと原則を定義し、明文化する（最高責任者の支持も得る）
- AI技術の確実性と信頼を築き、組織全体での明確なガバナンス構造を確立する



リスク、ポリシー、管理

- 倫理原則と現行法に基づきポリシーを定め、リスクを評価する
- リスク管理フレームワークに沿ってポリシーをオペレーションに落とし込む
- 定期的なレポートとモニタリングの方法を定める



テクノロジーとイネーブラー

- 倫理原則（公平性、説明可能性など）をサポートするツールと手法を開発する
- それらのツールと手法をAIシステムやプラットフォームに組み込む
- 適切なデータガバナンスと管理体制を整備する



文化とトレーニング

- 責任あるAIの利用を重要なビジネス要件に格上げできるようにリーダーシップを強化する
- 全従業員に、責任あるAIの原則を明確かつ普遍的に理解してもらうためのトレーニングを行う
- ツール、手法、原則、行動に関する専門のトレーニングを提供する

信用を構築・維持する

AIシステムの利活用にあたり信頼を築くべき分野とエリア

情報セキュリティとプライバシー：既存のセキュリティやプライバシー基準に従う。あらゆるプロンプトにおいて、機密性の高い個人データや企業データが共有されるリスクとその影響について考える。機密データの出力を検討するほか、生成AIと企業のシステム、データ、アセットが統合されている箇所がないか、セキュリティ調査を実施する

継続的なリスクベースの監視：生成AIの学習方法を踏まえると、生成AIシステムが、信頼性に欠けるコンテンツ、偏ったコンテンツ、不適切なコンテンツを生成する可能性がある。特にチャットや意思決定のサポートに生成AIを利用する場合は、このリスクを低減するために、AIの出力を注意深く監視し、不適切な言語や画像を削除またはフィルタリングする

社会的な利益：ディープフェイクやフェイクニュースの武器化など、生成AIシステムがもたらす広範かつ長期的な社会的リスクを特定し、その低減をサポートする。これらのシステムが、単なるデジタルノイズとなって終わらないように、教育、金銭的機会、医療といった社会の利にどう貢献できるかを検討する

人材の育成：企業の目的と価値観に沿った生成AIポリシーを定める。生成AIシステムは、従業員の創造性と品質を支えるために使用する。生成AIモデルによって、職場への貢献と価値観を強化できることを従業員に伝える



AIガバナンス

組織の成功を後押しできる、効率的かつ効果的で、責任あるAIシステムの展開に必要な構造とプロセス

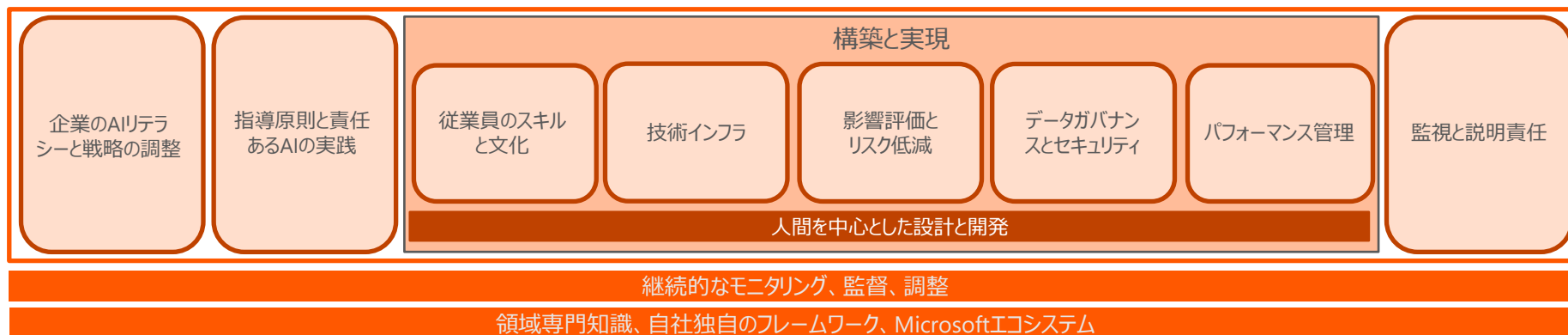
AIガバナンスのメリット

優れたガバナンスには、包括的な一連のプロセスと専門知識が求められ、ほとんどの組織ではそのような能力を段階的に実現する必要があります。可能であれば、どのステップも省略すべきではありません。最初の段階からガバナンス体制を正しく整備することには、以下のような大きなメリットがあります。

- 急速に進化するAIのテクノロジー、ユースケース、需要にいつでも対応できる
- ビジネス戦略やパフォーマンスに合わせてAIの取り組みと投資を調整できる
- 責任あるAIを実践することで、信頼を築き、リスクを低減し、差し迫った規制に対応できる

AIガバナンスモデル

コンセプトの段階から価値を実現するまで、AIによる組織の成功を保証するために必要な能力



成功への道のり



今すぐ着手

最も妥当なユースケースを2〜3件特定し、ガバナンスプロセスをステップごとに検討する



プログラムのデザインと開発

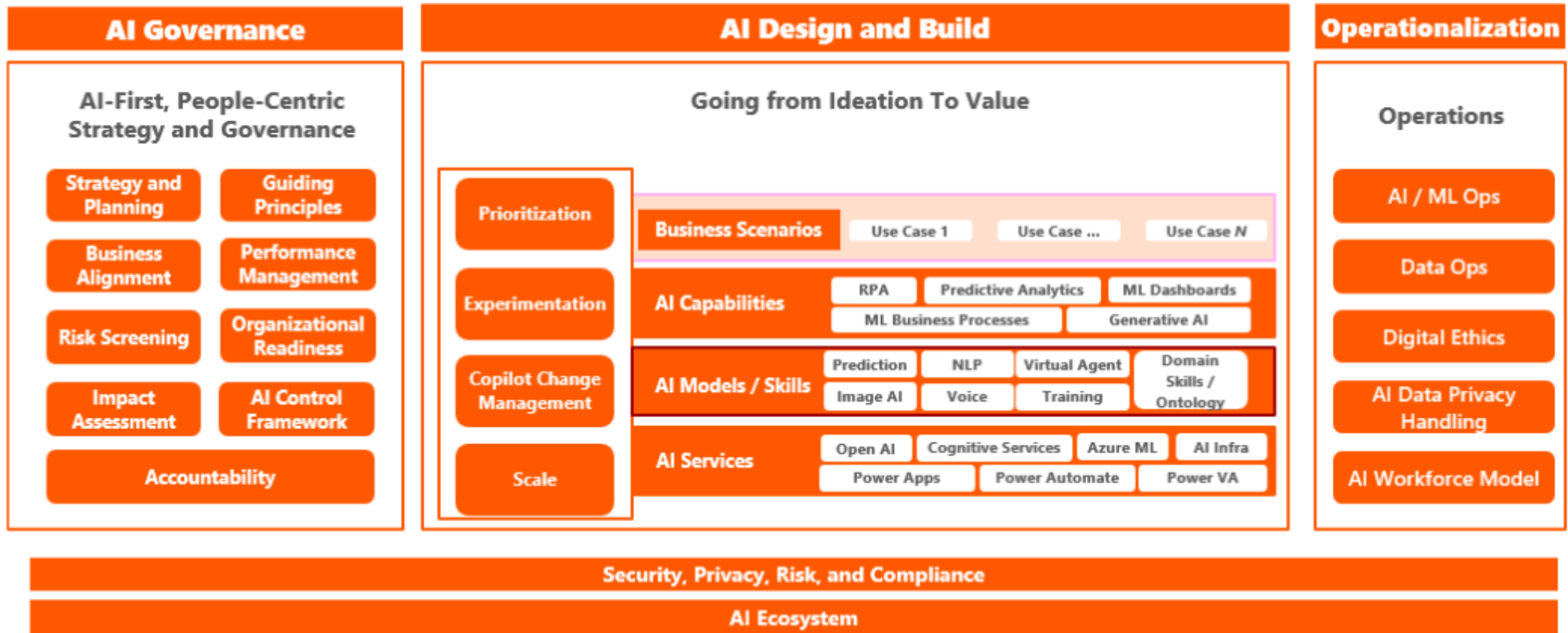
既存のガバナンス構造と能力を利用し、組織のニーズに合ったAIガバナンスを確立する



管理と進化

ガバナンスプログラムのパフォーマンス目標とリスク関連目標を設定し、必要に応じて継続的に改善する

責任あるAIガバナンスのフレームワーク



AIのロードマップと実装

目的通りのAI（や生成AI）を実現するためには、リーダーが早期にAIの理想像を一致させなければならない

AIはまだ開発段階にあり、その最終的な影響は未知数です。

当初は、主にタスクの自動化や役割の再定義に関わるAIユースケースが過剰に期待されていました。

私たちは、AIが持つ前衛的な力とは、組織の能力を実現する方法を見直すことで、コアビジネスを再構築できることだと考えています。



	潜在的な価値		
	タスクやプロセスの自動化	人材やスキルの開発	組織の能力
説明	ユースケースを個々のタスクや活動に適用する プロセスを再構築する	生成AIをすべての業務／役職に適用する 新たなスキルを育成・開発する	組織の能力、つまり「コア」部分を見直す ビジネスを変革する
AI CoEのフォーカス	PoC（概念実証） パイロット（試験運用モデル）	パイロットの稼働 人材とスキルの開発	経営モデルの設計（チームの設計、プロセス、インセンティブ、リーダーシップ、人材、変更管理）
価値	効率性	効率性 生産性	効率性 生産性 成長とイノベーション

AIの価値とは付加的なものです。複数の価値を平行して見つけ出し、順番に追求することができます。

AIの力を利用したい企業は、AI導入に関して5つの要点を検討する必要がある

原則と責任ある
AIを定義する

成熟した責任あるAI能力の積極的な開発

組織の責任あるAIの原則とリスク許容度を定義する。組織の原則とポリシーの両方に沿って、リスク管理とコンプライアンスのための効果的なガバナンス構造を整備する

実装し、成功
を測る

パイロット/PoC

優先度の高いユースケースを小規模なパイロットに転換する。コンプライアンスに準拠した環境でテストを実施し、潜在的な影響と拡張すべきビジネスケースを把握するためのバリューフレームワークを作成する

自社が所有
するデータを
整備する

現代的なエンタープライズデータプラットフォーム

戦略的で規則に沿ったデータの取得、改良、保護、展開アプローチを採用する

人材配置戦略を一新する

人材モデルと経営モデル

すべての階層の働き方を見直す。人材戦略やソーシングへの影響を評価する。変革を通して、スキル強化を推進し、従業員をサポートする

拡張に向けて
エコシステム
パートナーを選
択する

プラットフォームの選択とアーキテクチャ

ユースケースの実現に必要なデータとテクノロジーツールの評価と実装をサポートする

エコシステムパートナーの協力を得て、適切なユースケースに適したモデルと、拡張に必要な専門知識を特定する

潜在的な価値は魅力的だが、潜在的なリスクを考慮して機会を評価しなければならぬ。



1

自社に適したAIファースト戦略を確立する

取締役会と経営トップが、自組織のAIファースト戦略を定義、設計し、継続的に発展させるビジョン、戦略、プログラムについて意識を統一できるように支援する



2

AIセンター・オブ・イネーブルメントを設立する

自社のガバナンス構造を進化させ、自社独自の環境、目的、リスク許容度、原則に合わせてカスタマイズする。AIファーストの世界に向けて、データガバナンスを実践する体制を強化または確立できるように支援する



3

リーダーシップや従業員のAIリテラシーを向上させる

従業員に、新しいAI機能、プロセス、倫理的な問題について理解してもらうほか、指導原則を強化し、継続的な学習プログラムを確立する



4

AIで業務と従業員を積極的にサポートする

AIツールの新しい使い方を想像し、AIに特化したデータとテクノロジープラットフォームからビジネス価値を引き出す

AIセンター・オブ・イネーブルメントの基盤を確立し、始動するまでの流れ

1

経営モデルと変更管理

どうすればリスクを適切に低減しつつ、スピードある組織体制を築けるか？

最低要件

- 企業の指針、今後の展望、AIリスク管理を定義し、伝達する
- ビジネス関係者に目的と意図を伝える

より具体的な模索

- AIセンター・オブ・イネーブルメントの基本構造、ガバナンス、能力、責任を定義する

AI拡張準備

- 変更管理と役割分析のフレームワークを作成する
- AIリスク管理をロードマップに組み込むことを含め、変更計画とイネーブルメントプランを同時に作成する

2

価値の獲得

この新技術を使ってどのようにビジネス価値を高められるか？

- 事前に選択したユースケースからPoCの構築を始める

- ユースケースをビジネス全体に取り入れるプロセスを調整する
- すぐに実現できそうなユースケースを定義し、優先順位を付ける
- 先進的なユースケースを定義し、優先順位を付ける

- ビジネスケースとKPIのテンプレートを構築する
- 値を推定する
- ユースケースの発案と絞り込み、優先順位付け、選択を体系化する
- 価値の実現をロードマップに組み込む

3

技術イネーブルメント

どのような基盤モデルやパートナーを活用すべきか？

- 生成AIの実験を行うための安全かつ拡張可能なサンドボックス環境を用意する

- さまざまなユースケースのシステム原型に対応できるように、再現性のあるアーキテクチャとアセットを作成する
- パイロットの稼働状況を可視化する監視・制御システムを用意する

- コスト見積りを含め、ベンダーとモデル評価のフレームワークを作成する
- 戦略的な生成AIエコシステムを設計する
- 最初に本稼働させるユースケースを実現する
- ロードマップにプラットフォームビューを組み込む

4

PoCの構築

生成AIを効率的に構築し、拡張すべきものを判断するには、どうすればよいか？

組織の能力を重視する企業は、経営モデルにAIを完全に組み込まなければならない



AIを始める

AIを導入する準備は できていますか？

アバナードの調査によると、リーダーやそのチームメンバーは、AIによって業務の遂行方法が大幅に改善されることを期待しています。しかし組織は、AIの影響に備えて、人材、プロセス、プラットフォームの準備を整えるために、さらに投資を行う必要があります。

世界中で何百社ものクライアントと協力してきたほか、実際に生成AIを利用してきたアバナードの経験に基づき、成功には欠かせない「**4つの重要な要素**」をご紹介します。



AIファーストとは人材を優先すること

AIのメリットは、単に節約できる時間で測るべきではありません。もっと重要な機会として、AIによって人々の創造性と革新性が刺激され、最高の力が発揮されるようになるかもしれません。そのためには、従業員が既存の業務手順を学び直し、各自の役割の中でAIを活用する方法を改めて学ぶ必要があるでしょう。安全に試行錯誤を重ねられるように対策を講じた上で、従業員が可能な限りAIを快適に使いこなせるように、必要な従業員支援と従業員スキルの開発に投資する準備をしてください。

持続可能なビジネス価値を 推進する目的を理解する

AIは無限の可能性に満ちているため、今すぐ本番環境にAIを導入したくなることでしょう。だからこそ、明確な方向性を定め、実験、準備、拡大という、AIで継続的にビジネス成果を達成するためには必要な、継続的な取り組みをサポートする必要があります。これらをはじめとするさまざまな理由から、リーダーたちは自らのAIリテラシーを高め続け、継続的に変化していくことで、組織がAIに適応し、進化していくことをサポートしなければなりません。

AIの活用範囲を広げるには 強力なデータプラットフォーム が不可欠

データプラットフォームは、企業のデータを統一された単一の基盤で管理し、信頼の置ける唯一の情報源を確保するものです。これに加え、従業員がプロンプトエンジニアリングとプロンプトリファインメントについて理解することで、強力なデータプラットフォームが実現し、AIの出力に対する信頼性が高まるため、組織はAIの価値を迅速に享受できるようになります。

長期的に通用する責任ある AIを優先しつつ、組織の好奇心 を掻き立てる

AIは、責任あるビジネスの意味を大きく変えています。長期的に通用する拡張性の高い責任あるAIのフレームワークを取り入れることで、テクノロジー、プロセス、人材に起因する新たなAIリスクを評価し、対処する方法を判断できるようになります。しかし、責任あるAIのフレームワークの確立とは、組織がその価値を新たな形で実現し、それが具体的に反映された原則と行動を明文化して、ガバナンスプロセスに組み入れる機会でもあります。

初期段階から正しくAIを活用する



基礎的なAI技術の力を利用する

手段：今がその時です。まずは簡単なことから始め、それらのAI能力を**モジュラー式に拡張できる**方法で統合することで、機会や課題に対処できるユースケースを選択してください。そのためには、組織のあり方を**大きく見直す**必要があり、企業のITアーキテクチャ、組織、文化などに様々な影響が及ぶかもしれません。



変化に備え、業務内容を見直す

方法：AIは人々の仕事を奪うのではなく、業務アシスタントとして人々を助けるものです。企業は、**業務内容を見直し、AIの価値**を実現するまでの道筋を見つける必要があります。ビジネスリーダーは、業務内容の再設計、タスクの再設定、人材の再教育など、今すぐ**変革をリード**し始めなければなりません。



ガバナンスと責任あるAIを確立する

方式：組織全体でAIについての将来の展望を考え、AIの調査、検証、改良を行い、ビジネス全体に普及させることを担う**一元的なチーム**の設置を検討してください。**将来的な目標**と、顧客、パートナー、従業員に対してAIの**リスク、限界、不確実性**について**誠実に伝える**堅牢なアプローチとの間で、**バランス**を取る必要があります。実装モデルの責任、迅速性、反復的なトレーニングに関するフィードバックを提供できる専門家を見つけ出す必要があります。



avanade